Agilent 34970A BenchLink Data Logger 3 Version 3.10.00
簡易取扱説明書

2009年10月5日

この簡易説明書は「Agilent 34970A BenchLink Data Logger 3 Version 3.10.00（以後 BLDL3）」の簡易取扱説明書です。BLDL3 は 34970A の設定、測定およびデータ収集を行うソフトウェアです。

ライセンスについて - ヘルプより一部抜粋
Agilent は、本ソフトウェアが付属していた Agilent 34970A データ収集／スイッチ・ユニットと組み合わせて使用する場合のみ、本ソフトウェアの適切な数のコピーをユーザが使用する権利を認めます。「使用」とは、本ソフトウェアの記録、ロード、インストール、実行、表示を指します。本ソフトウェアを改変したり、本ソフトウェアのライセンス機能や制御機能を無効にすることは禁止します。
ライセンスが「デモンストレーション用」または「評価用」の場合、ユーザは関連する Agilent ハードウェア製品を購入するかどうかの決定のための一時的な評価の目的でのみ本ソフトウェアを使用できます。
詳しくは「**ヘルプ | ソフトウェア・ライセンス条件**」をご覧ください。

弊社 web に34970A および BLDL3 について詳しく説明がございます。こちらもご覧ください。

[34970A]
- 製品トップ-
http://www.home.agilent.com/agilent/product.jspx?cc=JP&lc=jpn&nid=-536902435.536881544

- ユーザーズ・ガイド -
http://cp.literature.agilent.com/litweb/pdf/34970-90433.pdf

- 各モジュールについて -
ユーザーズ・ガイド p.164 – 177、p.379 – 401

- モジュール簡易一覧表 -
http://www.home.agilent.com/agilent/editorial.jspx?cc=JP&lc=jpn&ckey=312365&nid=-35204.536881544.00&id=312365

[BLDL3]
- 製品トップ-
http://www.home.agilent.com/agilent/product.jspx?cc=JP&lc=jpn&nid=-35204.536883644&pageMode=OV

- ドキュメント・最新版ソフトウェアダウンロード –
「Getting Started Guide」とインストーラのダウンロード。
http://www.home.agilent.com/agilent/editorial.jspx?cc=JP&lc=jpn&ckey=778242&nid=-35204.536883644&id=778242

目次

BLDL3 のインストール方法から使用方法について順番にご紹介いたします。
よくある質問は最後に『FAQ』にまとめましたのでこちらもご利用ください。
全 22 ページの簡易取扱説明書です。

また、BLDL3 の**ヘルプ**（日本語）もご覧ください。

1. BLDL3 インストール方法

BLDL3 をご利用になるために、インストールを行っていただきます。

◇ システム条件 (Version 3.10.00)

◆ OS

Windows 2000 SP4
Windows XP (32bit) SP2
（上記全ての Home edition はサポートしておりません。）
Windows Vista (32bit)
（ Business, Ultimate, Enterprise のみサポートしております。）

推奨 Pentium ® 4、800MHz 以上
最小 Pentium Ⅲ、500MHz

◆ IO Libraries Suite

Version **14.1** 以降

◆ RAM

推奨 256MB
最小 128MB

◆ **ディスク容量**

推奨 200MB
最小 100MB

◆ **ディスプレイ**

解像度 1024x768 、256色

◆ **ユーザ**

Power User と Administrator のみ

IO Libraries Suite は PC と測定器を接続するために必要なソフトウェアです。
まずIO Libraries Suite で PC と測定器を接続した状態で BenchLink Data Logger 3 をご使用ください。

IO Libraries Suite の最新版はこちらからダウンロードしてください。
http://www.home.agilent.com/agilent/product.jspx?cc=JP&lc=jpn&ckey=1695581&nid=-34466.907863.00&id=1695581

IO Libraries Suite の詳しいインストールおよび使用方法については弊社 web または「 IO Libraries Suite 15.5 簡易取扱説明書」をご覧ください。

◆ **以下のランタイム・ソフトウェア・コンポーネントが付属しています（ダウンロードに含まれています）。**

・ Microsoft .NET Framework V2.0

・ Microsoft Data access components V2.8 SP1

◆ **ドキュメントの表示用に以下のソフトウェアが必要です。**

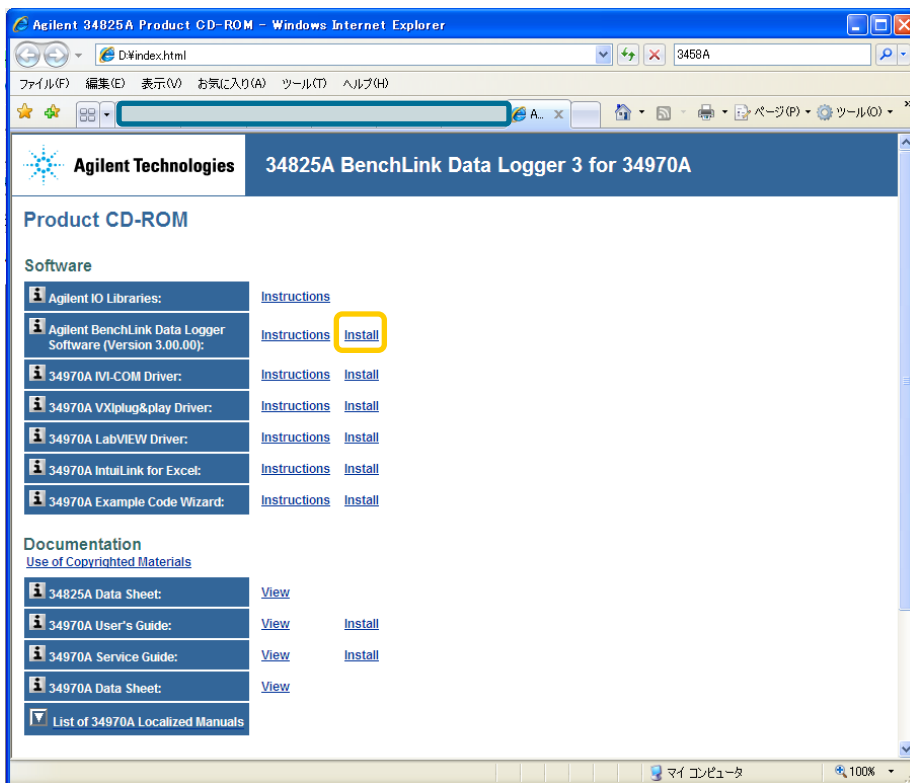
・ Adobe ® Acrobat ® Reader V5.0 以上

◇ インストール方法

34970A に付属の CD または弊社 web ページからインストーラ「**BenchLink Data Logger 3 Version 3.10.00 Download**（222MB）」をダウンロードしてインストールしてください。

◆ 付属 CD の場合

1. CD-ROM をドライブに入れてください。
2. ウィンドウが開いたら「Agilent BenchLink Data Logger Software (Version 3.10.00) 」の「Install」をクリックしてインストールしてください。

マイコンピュータ｜CD ドライブ｜index.html　からもウィンドウが開きます。

◆ web からダウンロードする場合

以下の web からインストーラをダウンロードして、インストールしてください。
http://www.home.agilent.com/agilent/editorial.jspx?cc=JP&lc=jpn&ckey=778242&nid=-35204.536883644&id=778242

BenchLink Data Logger 3 のインストールが完了すると、デスクトップにアイコンが表示されるようになります。

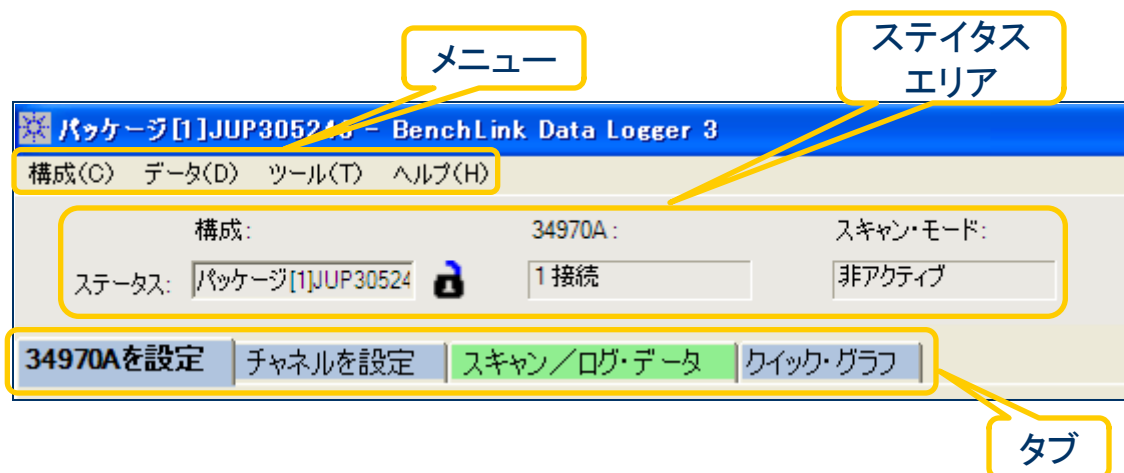
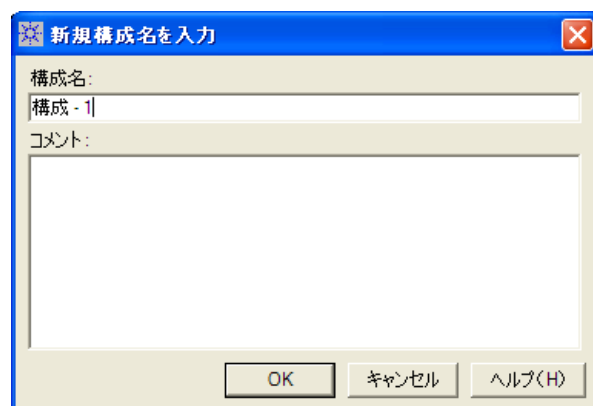
2. 使用方法

◇ Step 1　接続方法

まず、" IO Libraries Suite " の『Connection Expert』で測定器が PC に接続されていることをご確認ください。" IO Libraries Suite " の使用方法および測定器との接続方法については弊社 web または「IO Libraries Suite 15. 5 簡易取扱説明書」をご覧ください。

[IO Libraries Suite 15.5 Connectivity Guide with Getting Started]
http://www.home.agilent.com/upload/cmc_upload/All/iols_15_5_connectivity_guide.pdf

◇ Step 2　新規構成を作成

はじめに、表示と呼び方についてご紹介します。以後の説明ではこれらの呼び方を使います。

メニュー｜構成｜新規 をクリックしてください。すると以下のウィンドウが出ますので、構成名とコメントを入力して [OK] を押してください。ステイタスエリアに構成名が表示されます。

◇ Step 3　34970A の設定

BLDL3 にはアプリケーション・モードが 2 つあります。

・34970A に接続
　このモードは 34970A と PC が接続されているときに使用します。自動で 34970A のアドレスとモジュールを認識します。

・34970A に接続しない
　このモードは 34970A と PC とが接続されていないオフライン時に使用します。
　例： 生産ラインで使用する 34970A の構成をオフィスで行う場合　等

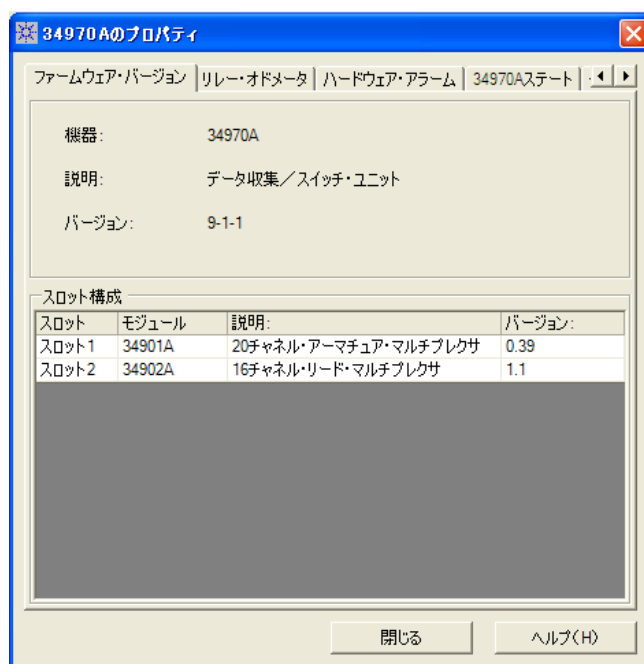
以下に「34970A に接続」モードについてご説明いたします。
　[34970A を追加] ボタンを押してください。

ウィンドウが開きます。
[検索] ボタンを押すと接続されている 34970A が選択可能になります。
選択ボックスをクリックしてチェックを入れ、[接続] ボタンを押してください。

34970A が接続されると以下のようにアドレスやモジュールが表示されます。
モジュール・モードでは各モジュールを「スキャン・モード」、「スイッチ・モード」、「非アクティブ・モード」からプルダウンで選択し設定できます。

34970A	アドレス	モジュール	モジュール・モード
1. 34970A	GPIB0::10::INSTR	34901A : 20チャネル・アーマチュア・マルチプレクサ	スキャン・モード
		34902A : 16チャネル・リード・マルチプレクサ	スキャン・モード
		なし	非アクティブ・モード

ここで右のプロパティのところにある ... ボタンを押すと 34970Aのプロパティが表示されます。

プロパティではタブの項目（「ファームウェア・バージョン」、「リレー・オドメータ」、「ハードウェア・アラーム」、「34970A ステート」、「その他」）を確認・変更することができます。
「その他 」のタブは日付やフロント・パネルのON・OFF、オートゼロのON・OFFが設定できます。

◇ Step 4　チャネルの設定

「チャネルを設定」タブに移動してください。

1. スキャンを行うチャネルにチェックしてください。
2. 名前を付ける場合は名前欄に記入してください。
3. 測定機能をプルダウンから選択してください。
4. レンジをプルダウンから選択してください。（温度測定時は『なし』になります。）
5. 分解能をプルダウンから選択してください。（温度測定時はタイプを選択してください。）
6. 測定の詳細欄をクリックするとウィンドウが開き、測定の詳細設定が行えます。
　（下記は DC 電圧測定の場合）

構成 － 1 － BenchLink Data Logger 3

構成(C)　データ(D)　ツール(T)　ヘルプ(H)

構成：　ステータス：構成 - 1　　34970A：1接続　　スキャン・モード：非アクティブ

34970Aを設定　チャネルを設定　スキャン／ログ・データ　クイック・グラフ

チャネル	チャネルを有効にする		測定			
34970A	スキャン	名前	機能	レンジ	分解能	詳細
1. GPIB0::10::INSTR						
34901A						
101	☐		DC電圧	自動	5.5	...
102	☐		DC電圧	自動	5.5	...
103	☐		DC電圧	自動	5.5	...
104	☐		DC電圧	自動	5.5	...
105	☐		DC電圧	自動	5.5	...
106	☐		DC電圧			
107	☐		DC電圧			
108	☐		DC電圧			
109	☐		DC電圧			
110	☐		DC電圧			
111	☐		DC電圧			
112	☐		DC電圧			
113	☐		DC電圧			
114	☐		DC電圧			
115	☐		DC電圧			
116	☐		DC電圧			
117	☐		DC電圧			
118	☐		DC電圧			
119	☐		DC電圧			
120	☐		DC電圧			
121	☐		DC電流			
122	☐		DC電流			
計算チャネル						
追加	...					

測定プロパティ － 101

DC電圧の詳細設定

電源ライン・サイクル数-NPLC：1

チャネル遅延(S)：自動

DC入力抵抗：◉ 10 M　○ ハイ(G)

デフォルトを復元(D)

OK　キャンセル　ヘルプ(H)

4 端子抵抗測定を行う場合

ペアのチャネルは以下の通りです。
　34901A の場合：チャネルn+10
　34902A の場合：チャネルn+8
詳しくは34970Aのユーザーズ・ガイド『4 章　機能の詳細 – モジュールの概要』をご覧ください。

必要であれば、スケーリング（Mx+B）やアラーム・リミットも設定することができます。

・スケーリング

1. スケーリングを行うチャネルにチェックしてください。
2. 利得（M）、オフセット（B）、ラベルを入力してください。

・アラーム・リミット

1. テストをプルダウンから選択してください。
2. ローまたはハイもしくは両方を入力してください。
3. ハードウェアをプルダウンから選択してください。
4. 詳細をクリックするとウィンドウが開き、詳細設定が行えます。

◇ Step 5 スキャン / データ・コントロール の設定と測定の開始

「スキャン / ログ・データ」タブに移動してください。

各設定ボタンを押すとウィンドウが開きます。
設定を行い、[OK] ボタンを押してください。

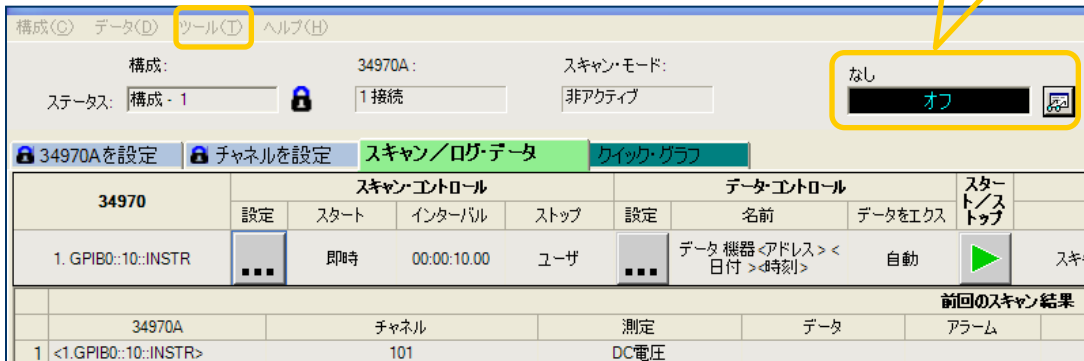
設定が完了したら、スタートボタンを押して、
測定を開始してください。

■ ボタンで測定を中止できます。

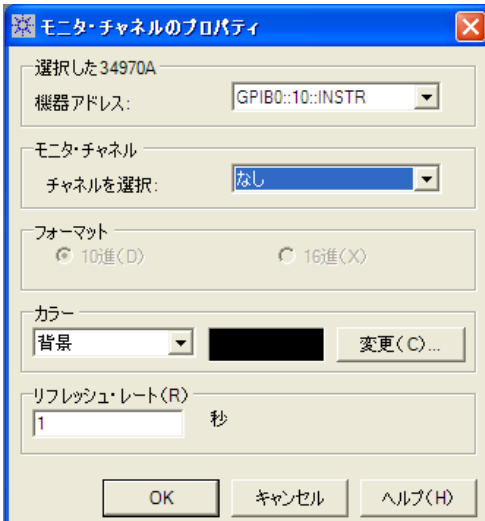
PC がハングアップした際など、万が一の場合に備えてスキャン終了時に自動的に .csv にエクスポートする設定にすることをお勧めします。詳しくは [FAQ 2] をご覧ください。

◇ Step 6　測定値のモニタ方法

測定値をモニタするにはモニタ･チャネルまたはクイック･グラフをご利用ください。

･モニタ･チャネル

モニタ･チャネルはある1つのチャネルのその時々の測定値をモニタし続けます。

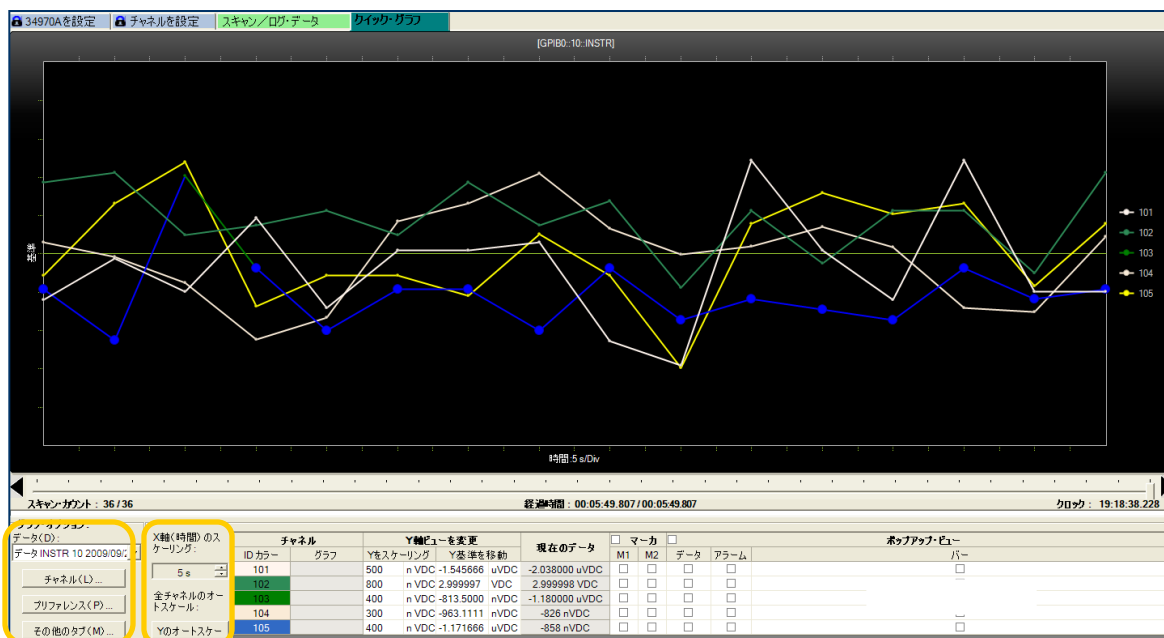
メニュー | ツール | モニタ･チャネル をクリックしてください。

モニタ･チャネルが表示されます。右の　ボタンを押してください。

ウィンドウが開きます。モニタ･チャネルのプルダウンからモニタするチャンネルを選択します。

BLDL3 で測定中に測定器のフロントパネルを使用して測定値をモニタしないでください(Local でモニタしないでください)。
フロントパネルを使用してモニタするとデータが正しくファイルに出力されなくなります。

必ずモニタ･チャネルまたはクイック･グラフを使用してください。

・クイック・グラフ

クイック・グラフは測定中およびファイルの各チャネルの測定値をモニタすることができます。

グラフ・オプションでグラフにするデータをプルダウンで選択できます。また各ボタンをクリックすると下のウィンドウが開き、詳細設定が可能です。

スケーリングではオートスケールを行うことができます。

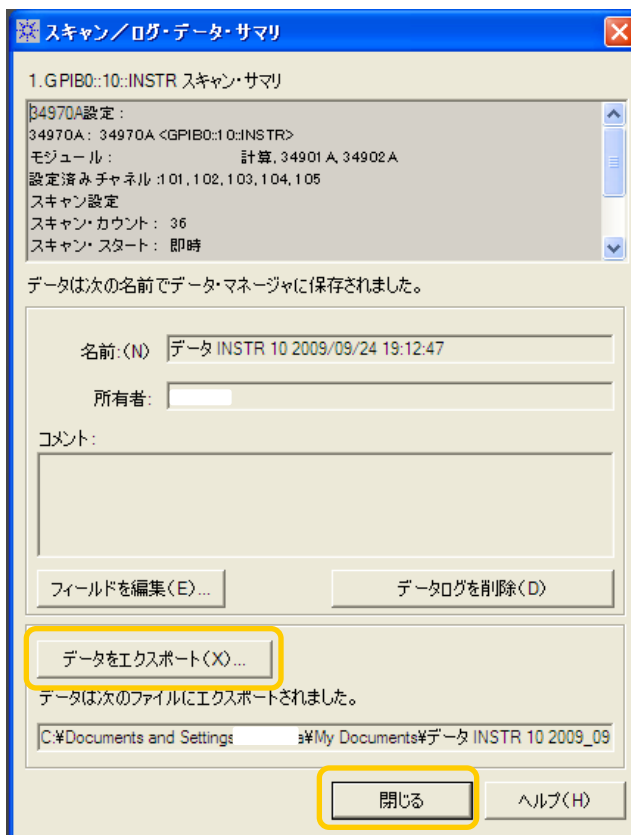
長期測定中は PC のメモリを消費し、測定に影響が出ることがございますので、必要最小限の表示にしてください。

◇ Step 7　測定結果

測定が終了すると以下のウィンドウが開きます。

[データをエクスポート] ボタンで CSV ファイルにデータをエクスポートできます。
CSV ファイルにエクスポートされていなくても、データ･マネージャにデータは自動的に保存されます。
[閉じる] を押して終了してください。

データを自動的に CSV ファイルにエクスポートする方法およびデータマネージャに保存されたデータを CSV ファイルにエクスポートする方法は [FAQ 2] をご覧ください。

⚠ Excel で CSV ファイルを開く際、文字化けする場合はまずテキストエディタでファイルを開き、ANSI 形式で保存しなおしてください。

BLDL3 を終了すると構成とデータが自動的に保存されます。

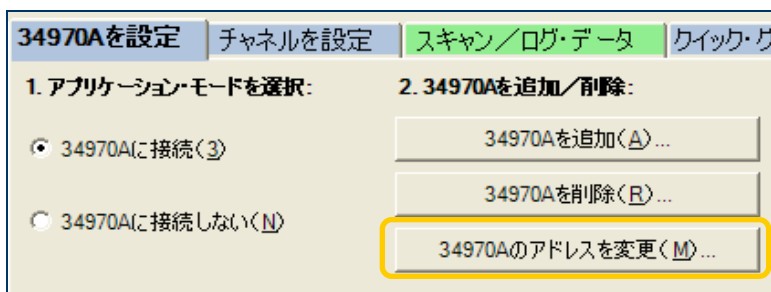
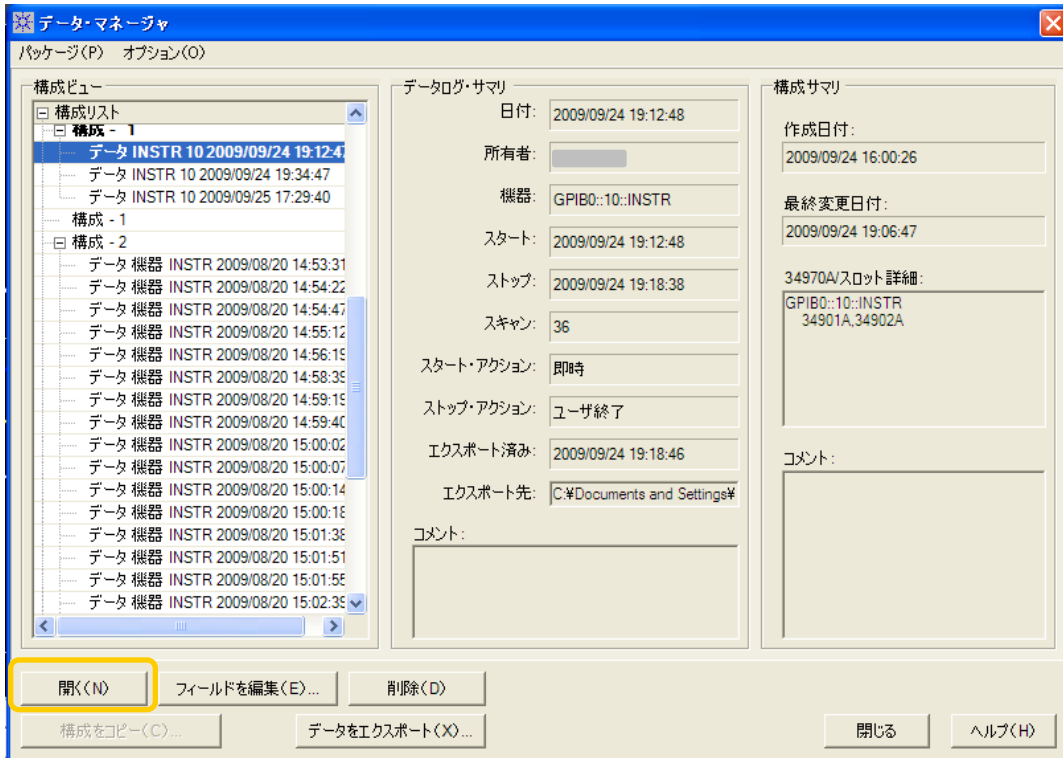
⚠ トラブル等で測定を中止した際にも直前の測定回数までのデータは保存されます。
常に CSV ファイルで保存するよう設定されることをお勧めします。

⚠ 長時間測定を続ける場合、「65536行（Excel の上限）を超えた場合は自動的に分割する」という設定をされることをお勧めします。
こちらの設定方法も [FAQ 2] をご覧ください。

◇ Step 8　構成のダウンロード方法とアップロード方法

・ダウンロード方法

BLDL3 を起動し、**メニュー｜構成｜開く** をクリックしてください。

ウィンドウが開きます。構成リストから開く構成を選択して [開く] ボタンを押すと以前の構成を利用できるようになります。測定開始についてはStep 4 をご覧ください。

34970A のアドレスのみを変更する場合は [34970A のアドレスを変更] をクリックしてください。

構成を開いたら、**メニュー｜構成｜開いている構成を 34970A にダウンロード** を選択してください。すると構成が 34970A にダウンロードされます。

・アップロード方法

測定器の内部メモリに保存されている構成をPCに取り込む方法です。

メニュー｜構成｜アップロードによる新規 を選択してください。34970A の現在の構成を新規構成としてPCに取り込むことができます。

FAQ 1 – チャネルの設定が勝手に変わってしまいます

Step 4 のチャネルの設定を行っている途中で設定が自動的に変わってしまうことがあります。
　分解能を設定した後に詳細の NPLC を設定したとき（または逆の順番で設定したとき）自動的に分解能（または NPLC）が変更されることがあります。
　分解能と NPLC は共に測定における積分時間を指定します。最後に行った積分時間の設定が採用されるため、もう一方の設定が変更されることがあります。

例 ： 分解能　4.5 を設定後、NPLC　10 を設定すると分解能が 6.5 に変わります。

NPLC をご確認の上、測定してください。
ユーザーズ・ガイド p.103、405、407 を参考になさってください。

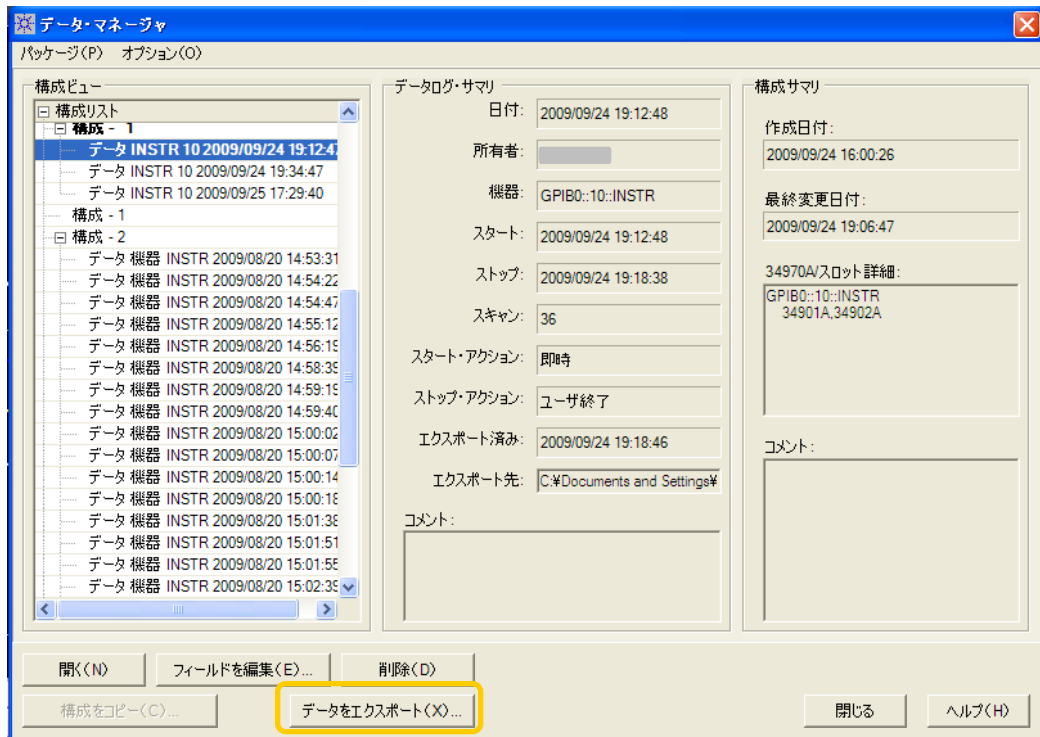
FAQ 2 – BLDL3 データのエクスポート方法

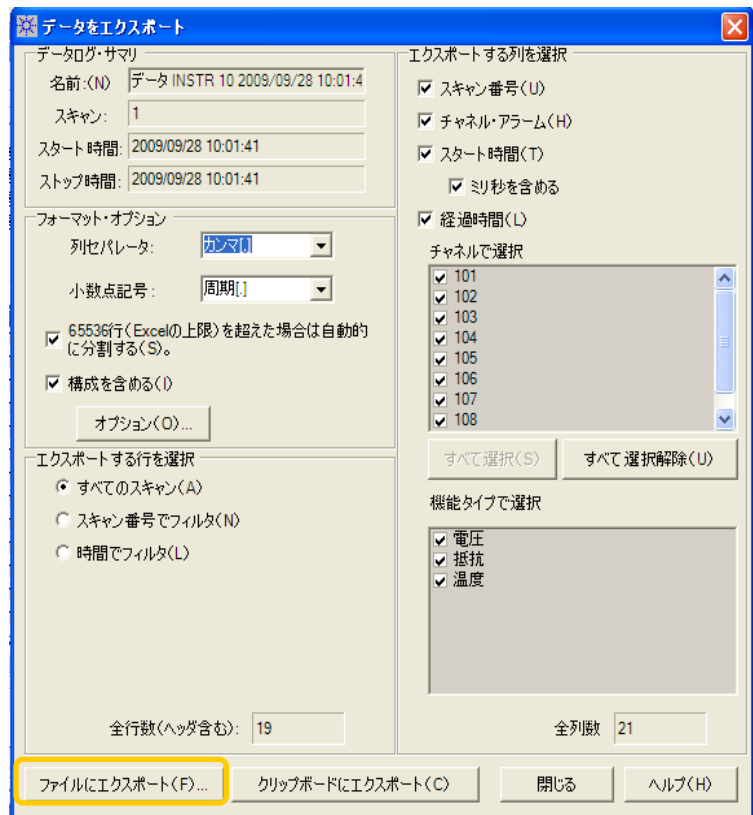
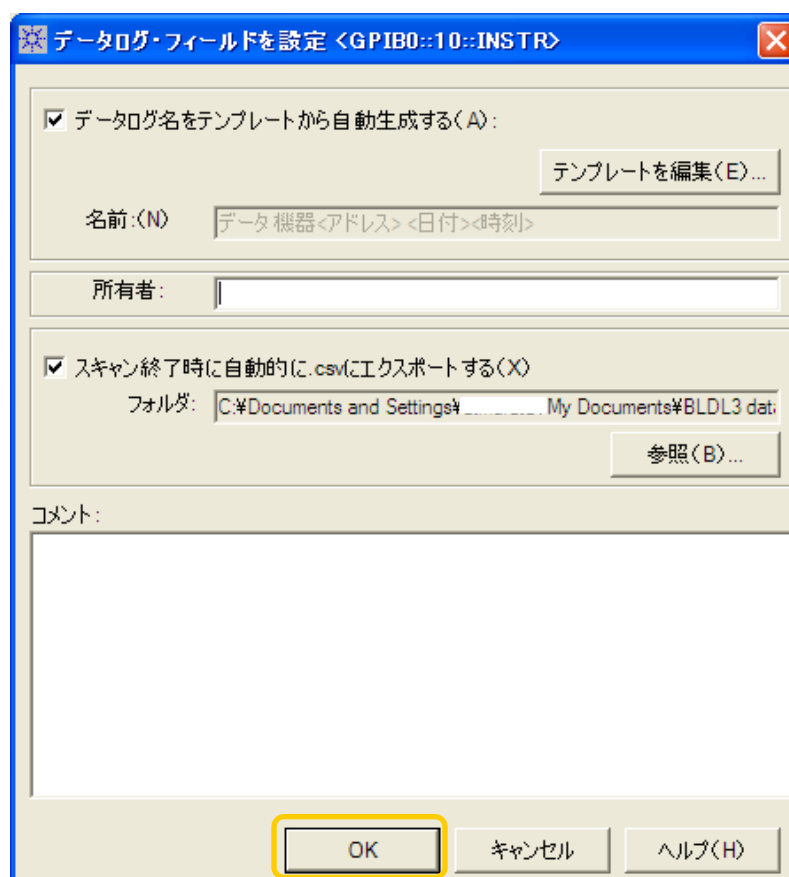
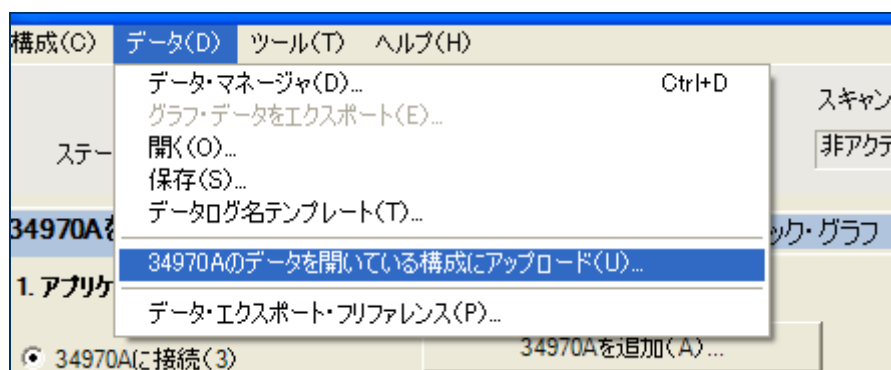
・スキャン終了時に自動的に .csv にエクスポートする方法

『データログ･フィールドを設定』の「スキャン終了時に自動的に、CSVにエクスポートする」にチェックをいれてください。

また、『データ･エクスポート･プリファレンス』をクリックして「65536行（Excel の上限）を超えた場合は自動的に分割する」にチェックを入れてください。また、「スキャン終了時に自動的に、CSV にエクスポートする」にもチェックを入れてください。

PC がハングアップした際など、万が一の場合に備えてスキャン終了時に自動的に .csv にエクスポートする設定にすることをお勧めします。
この設定を行うとスキャンが途中で止まってしまっても、止まる前回までのデータは CSV ファイルで保存されます。

・データ・マネージャのデータを CSV ファイルにする方法
メニュー | データ | データマネージャ をクリックしてください。ウィンドウが開きます。

データを選択し、[データをエクスポート] ボタンを押してください。
ウィンドウが開きます。

内容を確認の上、[ファイルにエクスポート] ボタンを押すと CSV ファイルにエクスポートされます。

・34970A 内部のデータをエクスポートする方法
34970A のメモリに格納されたデータを BLDL3 で取り込むことが可能です。
34970A との接続を確認後、**メニュー | データ | 34970A のデータを開いている構成にアップロード** を選択してください。
ウィンドウが開きますので [OK] ボタンを押してください。
サマリのウィンドウが開きます。こちらも [OK] ボタンを押してください。
この操作で、データごとセットアップを Upload できます。

エクスポートしたCSVファイルをエクセルで開くとこのようなデータを得ることができます。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L
1	名前:	データ INSTR 10 2009/09/24 19:12:47										
2	所有者:											
3	コメント:											
4	収集日付:	2009/9/24 19:12										
5	機器:	34970A	アドレス:	GPIB0::10::INSTR	モジュール:	2	スロット1:	34901A	スロット2:	34902A		
6	全チャネル	5										
7	チャネル	名前	機能	レンジ	分解能	事前設定	スケール	利得	オフセット	ラベル	テスト	ロー
8	101		DC電圧	自動	5.5	DC Voltage#	FALSE	1	0	VDC	オフ	0
9	102		DC電圧	自動	5.5	DC Voltage#	TRUE	2	3	VDC	オフ	0
10	103		DC電圧	自動	5.5	DC Voltage#	FALSE	1	0	VDC	ロー／ハイ	0
11	104		DC電圧	自動	6.5	DC Voltage#	FALSE	1	0	VDC	オフ	0
12	105		DC電圧	自動	5.5	DC Voltage#	FALSE	1	0	VDC	オフ	0
13	スキャン・ニ	スタート・アクション:	即時	ストップ・アクション:	ユーザ終了							
14	スキャン	時刻	経過	101 (VDC)	アラーム 101	102 (VDC)	アラーム 102	103 (VDC)	アラーム 1(	104 (VDC)	アラーム 1(	105 (VDC)
15	1	2009/09/24 19:12:48	00:00:00:00:00	-2.79E-06	0	2.9999957	0	-1.18E-06	1	-1.50E-06	0	-8.58E-07
16	2	2009/09/24 19:12:58	00:00:00:09:807	-1.39E-06	0	2.9999963	0	-1.18E-06	1	-1.32E-06	0	-1.50E-06
17	3	2009/09/24 19:13:08	00:00:00:19:807	-2.47E-06	0	2.9999985	0	-1.50E-06	1	-1.28E-06	0	-7.51E-07
18	4	2009/09/24 19:13:18	00:00:00:29:807	-2.04E-06	0	2.9999985	0	-1.29E-06	1	-1.36E-06	0	-1.18E-06
19	5	2009/09/24 19:13:28	00:00:00:39:807	-1.39E-06	0	2.9999968	0	-1.50E-06	1	-1.93E-06	0	-1.39E-06
20	6	2009/09/24 19:13:38	00:00:00:49:807	-1.82E-06	0	2.9999949	0	-8.58E-07	1	-1.33E-06	0	-1.39E-06
21	7	2009/09/24 19:13:48	00:00:00:59:807	-1.50E-06	0	2.9999963	0	-1.39E-06	1	-6.33E-07	0	-1.50E-06
22	8	2009/09/24 19:13:58	00:00:01:09:807	-1.72E-06	0	2.9999983	0	-1.07E-06	1	-4.29E-07	0	-1.61E-06
23	9	2009/09/24 19:14:08	00:00:01:19:807	-2.36E-06	0	2.999997	0	-6.44E-07	1	-1.05E-06	0	-9.65E-07
24	10	2009/09/24 19:14:18	00:00:01:29:807	-2.90E-06	0	2.9999974	0	-1.18E-06	1	-1.29E-06	0	-1.72E-06
25	11	2009/09/24 19:14:28	00:00:01:39:807	-1.07E-06	0	2.999997	0	-1.18E-06	1	-1.13E-06	0	-8.58E-07
26	12	2009/09/24 19:14:38	00:00:01:49:807	-2.15E-06	0	2.9999985	0	-2.04E-06	1	-1.20E-06	0	-7.51E-07
27	13	2009/09/24 19:14:48	00:00:01:59:807	-1.82E-06	0	2.9999968	0	-4.29E-07	1	-1.12E-06	0	-9.65E-07
28	14	2009/09/24 19:14:58	00:00:02:09:807	-1.29E-06	0	2.9999996	0	-1.07E-06	1	-1.36E-06	0	-6.44E-07
29	15	2009/09/24 19:15:08	00:00:02:19:807	-1.07E-06	0	2.9999979	0	-7.51E-07	1	-1.51E-06	0	-2.04E-06
30	16	2009/09/24 19:15:18	00:00:02:29:807	-1.50E-06	0	2.9999979	0	-1.93E-06	1	-1.57E-06	0	-1.39E-06
31	17	2009/09/24 19:15:28	00:00:02:39:807	-1.18E-06	0	2.9999961	0	-1.29E-06	1	-1.32E-06	0	-8.58E-07
32	18	2009/09/24 19:15:38	00:00:02:49:807	-1.39E-06	0	2.999997	0	-1.50E-06	1	-5.79E-07	0	-1.50E-06
33	19	2009/09/24 19:15:48	00:00:02:59:807	-1.29E-06	0	2.9999961	0	-1.18E-06	1	-4.18E-07	0	-1.07E-06
34	20	2009/09/24 19:15:58	00:00:03:09:807	-3.11E-06	0	2.999997	0	-7.51E-07	1	-9.55E-07	0	-1.50E-06
35	21	2009/09/24 19:16:08	00:00:03:19:807	-2.15E-06	0	2.9999985	0	-1.18E-06	1	-8.69E-07	0	-1.39E-06
36	22	2009/09/24 19:16:18	00:00:03:29:807	-1.61E-06	0	2.9999987	0	-1.72E-06	1	-9.87E-07	0	-6.44E-07

FAQ 3 – 測定中に PC を 34970A から外して測定できますか？

測定を BLDL3 で設定・制御して開始後 PC を34970A から切り離し、測定終了後に再び PC を接続しデータを取りだすことが可能です。

まず、設定・開始ボタンを押すところまでは Step 1 ~ 5 をご参照ください。測定が開始したら PC を切り離します。測定終了後、[FAQ 2 - BLDL3 データのエクスポート方法] p.18 をご覧の上、データをエクスポートしてください。

長時間の測定では以下の点にご注意ください。
34970A 本体のメモリは 50,000 データです。これ以上のデータを測定してもメモリに上書きされてしまうのでご注意ください。34970Aの内部マルチメーターを使ってスキャンをおこなうと、データは自動的にチャンネル番号、タイムスタンプ付きで内部メモリに保存されます。

測定後に移動等で 34970A を電源OFF にし、再び電源ON にしてエクスポートを行う場合、以下の点にご注意ください。
デフォルトでは測定器ステートは電源ON 時にリセットされる設定です。このままでは測定器のメモリの測定値はリセットされてしまいます。必ず以下の方法で設定を変更の上、電源OFF にしていただくようお願いいたします。

[Utility] ボタン（[Shift]、[Advanced]）を何度か押し、『PWR ON RESET』をノブを回して『PWR ON LAST』にし、[Utility] ボタンを押し設定してください。
フロント・パネルからだけではなくリモートでも設定できます。

これで電源OFF 時のステートを維持します。詳しくは 34970A のユーザーズ・ガイドp.141 をご覧ください。

FAQ 4 – 他の PC へ構成を転送できますか？

「パッケージ」を使用するとパッケージファイル(.bldl) の作成が可能です。このファイルを PC 間で転送可能です。

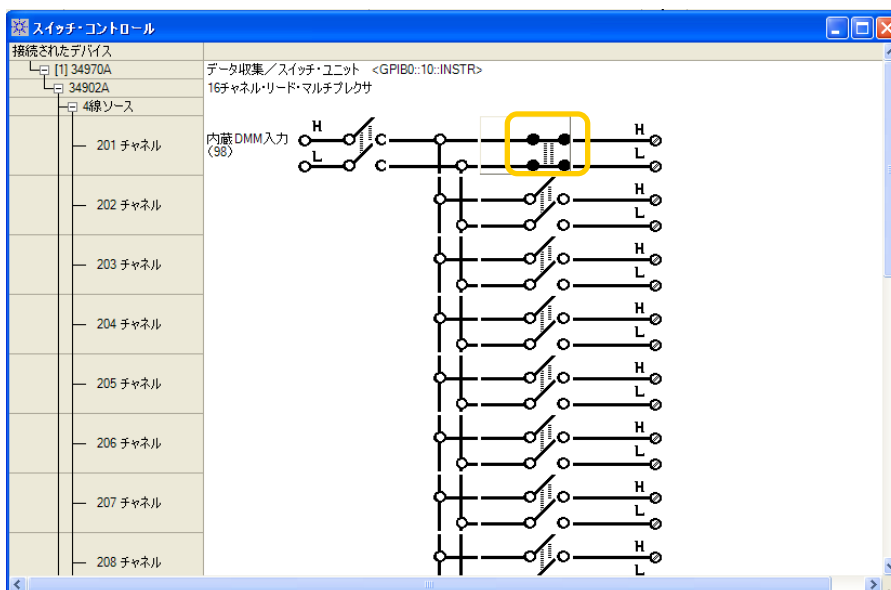
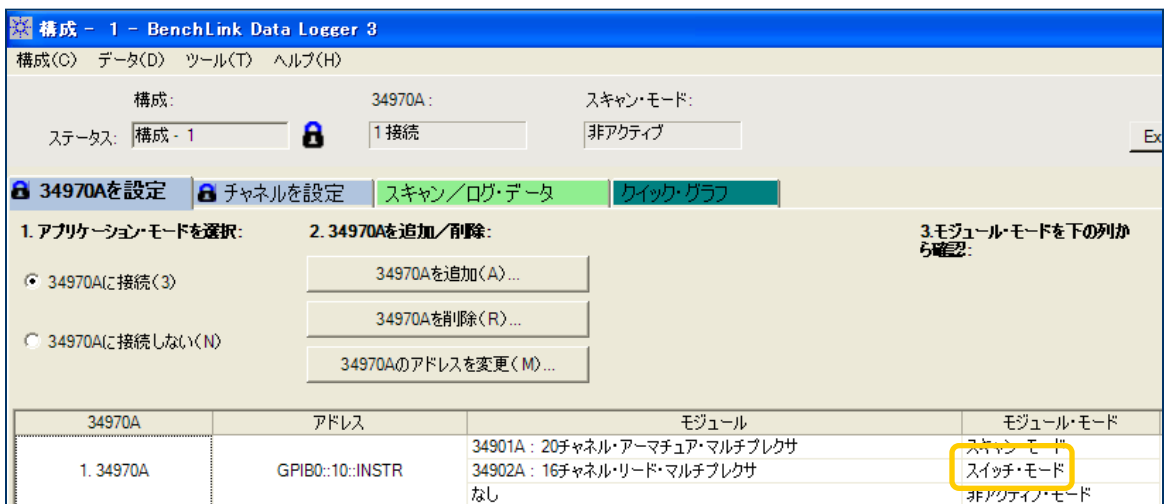
【パッケージ作成方法 】
メニュー | データ | データ・マネージャ | パッケージ | 作成 を選択してください。
転送したい構成・データ（構成のみは可能ですが、データのみの選択は不可能です。データのみを転送したい場合は [FAQ2 - BLDL3 データのエクスポート方法] をご覧ください。）にチェックを付け保存してください。

【パッケージの開き方】
メニュー | データ | データ・マネージャ | パッケージ | 読み取り を選択してください。開きたいファイルを選択し開くことができます。

FAQ 5　–スイッチとして使用できますか？

BLDL3 で自動でスイッチの開閉を行うことはできません。手動ならできます。

BLDL3 は基本的にデータ収集用に設計されております。そのため、BLDL3 上でスイッチを動かすにはいろいろな制限が あります。
BLDL3 上で、単発でスイッチを開いたり閉じたりという命令を送ること はできますが、時間などを設定してスイッチの開閉をプログラムすることは できません。

Step 3 で「モジュール・モード」を『スイッチ・モード』にしてください。
メニュー | ツール | スイッチ・コントロール をクリックするとウィンドウが開きます。
ここでは、スイッチをマウスによって 手動で切り替えられるようになっています。つまり、スイッチを開閉するときに常 に PC の前に人がいる必要があります。

FAQ 6 – 複数台の 34970A を同時に制御できますか？

付属のベンチリンクデータロガーソフトは、同時に 4 台までの34970A が制御できます。
しかし、34970A は、複数台で同期を取って測定することはできません。それぞれ独立した内蔵マルチメーターを持っていますので、個別に制御して下さい。

FAQ 7 – チャネルごとにデータを表示できますか？

スキャン時の測定値の表示はスキャンリストごとです。チャネルごとに表示することはできません。

FAQ 8 – ストリップチャートでは何ポイントまで表示できますか？

最大 2500 個です。初期設定は 500 個になっていますが、この設定は変更することが可能です。
p.12 をご覧ください。プリファレンスより変更できます。

FAQ 9 – RS-232C 制御でデータがぬけてしまうのはなぜですか？

一般的にノート PC の RS-232C の I/O Chip はバッファサイズを 16 バイトしか持っていないため
リアルタイム・フロー制御が行えないことがあります。この場合、データ損失・データ損傷の原因となるバッファの Overrun が生じる可能性があります。また改行文字が紛失すると EOL(エンドオブライン)終端文字をソフトウェアが見つけられなくなりタイムアウトが 発生します。文字の紛失は誤ったデータを返す原因になります。
RS-232C のボーレートを落として頂いても改善されない場合は、GPIB の Interface のご使用をお勧めします。RS-232C でも他の PC(ノート PC よりも Desktop PC)に変えて頂くと正しく動作するものもあるようです。詳しくは弊社 web をご覧ください。

http://www.home.agilent.com/agilent/editorial.jspx?nid=-536897164.536881544.02&lc=eng&ckey=131609&id=131609&cc=US

FAQ 10 – 34970A に標準付属の熱電対のタイプと接続方法は？

34970A に標準付属している熱電対は J タイプ（長さ118cm）です。J タイプのリード線のカラーは、赤と白ですが、アメリカ仕様と日本仕様ではプラスとマイナスが**逆**です。付属している熱電対は**アメリカ仕様**のものですので、接続にご注意下さい。

Jタイプ	(+) カラー	(–) カラー
日本仕様	赤	白
アメリカ仕様	白	赤

FAQ 11 – 言語の変更を行うには？

メニュー | ツール | プリファレンス のプルダウンで変更できます。
『 英語・ドイツ語・フランス語・日本語・韓国語・簡体字中国語 』より選択できます。